クリスチャン新聞
THE CHRISTIAN
1989年1月22日発行（毎日曜日発行）
1.22 発行©クリスチャン新聞 〒101 東京都千代田区神田駿河台2－1
発売いのちのことば社 ☎03・291・8524㈹（大阪支局・大阪市北区梅田3－2－14 ☎06・348・0562）
昭和35年12月10日 第3種郵便物認可 通巻第1087号

□聖書信仰の確立
□宣教のビジョン
□健全な教会成長
□実際生活の指針

クリスチャン新聞 1部 160円
予約購読料（1部につき送料共）
6か月（3,840円） 1か年（7,680円）
船便 アメリカ 1か年 （13,000円）
ブラジル 1か年 （13,000円）
韓国 1か年 （13,000円）
振替口座東京5－101512番
クリスチャン新聞

いのり

永遠より永遠にいます神よ、あなたは、その神聖なる永遠性にさえ私たちをあずからせたもうのですね！

F・B・マイアー

アフリカへ パンと愛を
日本国際飢餓対策機構
献金の振込は郵便振替 東京7-68590
（アフリカ指定とお書きください）

「昭和」が終わったとき

教界ドキュメント

各地で緊急集会

「昭和」が終わった。一億〝総〟追悼ムードの「多数」と、歴史の責任免罪と天皇制美化、政教分離なし崩しに抗議の声をあげる「少数」の狭間（はざま）で、様々な課題を積み残したまま――。昭和天皇逝去の七日、かねて懸念されていた皇位継承儀式「剣璽等承継の儀」がキリスト教界などから出されていた強い要望を無視する形で「国事行為」として行われた。続く「朝見の儀」も国事行為化、二月二十四日に予定されている「大喪の礼」も国事行為とされることが濃厚となった。こうした中で、七日から八日にかけて、教界関係者らは各地で緊急集会を開き、各教団・教派、JEA（日本福音同盟）、NCC（日本キリスト教協議会）などから一斉に声明・要望書・通達などが出された。一方、天皇逝去の日の翌日となった八日の日曜日、各教会では主日礼拝が守られ、変わらない主の〝時〟が刻まれた。

教会の応答、聖書に聴く

横浜で福音派と日基教会

一月八日午後、横浜では福音派が中心となり、日本基督教会の教職・信徒の協力を得て「天皇の死に際しての緊急祈祷連絡会」が開かれ、約四十人が集まった。今回のような問題に関して聖書が語ろうとしていることは何か、また伝道・牧会の現場で求められている応答は何かという見地でメッセージが語られ、とりなしの祈りをささげた。

奨励には日本基督教会・横須賀教会の南穆（みなみ・あつし）師が立ち、「私たちキリスト者にとって、天皇のいわゆる『戦争責任』が最も本質的な問題ではなく、私たち自身が、神の前に、キリストのしもべとして真の意味で自由だったのかが問われる」。更に「戦中弾圧された教派もあるが、日本基督教会はじめ多くの既成教派は難を避け、その結果、国民、アジアの人々への迫害の一端を担うことになった」と振り返り、使徒五・29～32から、「初代教会はイエスの証人として人に従うより神に従い、『聖霊もそのことの証人』と、教会を生み出した聖霊に言及することで、神礼拝を自由に守り抜くことを宣言した」と語った。

また、申命記四・27～31から、「偶像の地でも、真剣に主を礼拝するなら主にお会いできるとの約束は、現在の私たちにも当てはまる。私たちは、自分の強さの故にでなく弱さにおいて働く聖霊により、徹底的に自由な者であるべきだ」とすすめた。

続いて、日基教会・靖国神社問題特別委員会主事の武田兵次郎氏が、天皇代替わりに関する諸儀式等について解説し、問題点を説明した。

あいさつに立った日基教会・横浜長老教会の登家勝也師は、「公的人物が〝公的責任〟を負わぬことが日本人の生き方になってはいけない」と指摘。「韓国の教会との交流を通して教えられることは、アジアの人々や在日韓国・朝鮮人らへの認識、態度、発言、行動も変わるような本気の悔い改めが求められている。韓国はじめアジアの諸教会への謝罪も、教団や教会レベルの、公的な責任を伴う謝罪でないと、対等のパートナーとして相手にされない」とアジアへの責任を語った。

また、「国民の統合」の最も良質のものは、ローマ一三・1～7などに見られるように、統治者と被統治者間の、「神の統治下にゆだねられた地上の権威を重んじる」ことから来る一致に由来する――と述べ、「聖書が『からだを持って神の栄光をあらわしなさい』と命じているように、社会通念や金、雰囲気を恐れず主なる神を恐れて、このチャンスに私的信仰を公的に表明しよう」とすすめた。

最後に参加者らは「時の良いことも悪いことも神のなさること。どんな状況になっても、みことばを語る業に励めるように」などと祈りを合わせた。

天皇制の賛美に
抗議の声を

1月7日、皇居を訪れた弔問者（上）と、同日夜、早稲田奉仕園での集会（下）

天皇制賛美に抗議集会

東京

七日夜、天皇制反対などを表明するキリスト者や労働者、学生などの団体が集まり、「天皇制の賛美に抗議の声を―共同声明運動緊急集会」（開催主体＝共同声明運動実行委員会）を東京・西早稲田の早稲田奉仕園スコットホール（早稲田教会）を会場に開催した。

午後七時から九時まで開かれた集会にはマスコミ関係者を含め、当初の参加予想人数をはるかに上回る六百人が参加。百五十人収容の会場は全員を収容し切れず、屋外にまで人があふれた。

十三人の各団体の代表者が演説。天皇制やXデーに伴う社会状況に対する、自らの団体の姿勢などを語った。

キリスト教界からは日キ教団事務局総幹事の中嶋正昭師と同教団靖国問題委員会委員長、戸村政博師（東京・浅草北部教会）がスピーチ。

中嶋師は「日本がかつて戦争への道を歩み始めた時、私たちの教団は伝道と称して侵略行為に加担し、誤ちに気づくべきところを気づかなかった。こういう歴史は繰り返してはならない。今後も天皇を賛美しないという運動を進めていきたい」と語り、また戸村師は「このXデーをアジア太平洋地域の人々のことを考えて静かに過ごしたい。かつての天皇の神格化は戦争で人を殺すことを何とも思わない国民を作り上げてしまった」と語った。

キリスト教婦人矯風会は「天皇賛歌、美化の流れに乗らない」などの声明を発表。最後に参加者全員でシュプレヒコールをあげた。

天皇賛美に反対

京都で緊急集会

七日夜、京都市で部落解放同盟京都府連合会や日本キリスト教団京都教区「教会と社会」特設委員会など三十団体で構成する「天皇制の強化を許さない京都実行委員会」の主催で「戦犯天皇を糾弾し続けるXデー京都緊急集会」が開催された。

集会では天皇賛美一色に染まったXデーに、差別問題の頂点に立つ天皇、天皇制に対して確固たる取り組みの必要が訴えられ、「天皇の死を利用した天皇賛美キャンペーンに反対し、また今後も天皇の戦争責任を追及していく」などとした声明を採択した。

また各団体からのアピールも相次ぎ、後宮俊夫・前日本キリスト教団総会議長は「天皇制を維持するために戦争を引きのばした天皇の戦争責任を追及しなければならない。また『剣璽等承継の儀』のような宗教的色あいの強いものを国家行事としているこのような天皇制をくずしていきたい」と語った。

謝罪せず死去に遺憾と憂慮

在日大韓総会長

在日大韓基督教会総会（楊炯春総会長）は七日、「総会長談話」を出した。内容概略は次の通り。「昭和天皇」は、戦責告白も、在日韓国・朝鮮人への謝罪もなく死去した。遺憾と憂慮の念を禁じえない。彼の魂を裁くことはするまい。だからと言って、①歴史の歪曲化工作、②外務省による天皇元首化策謀、③「快癒記帳所」設置等の公費乱出、④天皇制批判の言論封殺、⑤「自粛ムード」による民衆生活圧迫、⑥「新天皇」即位利用のマスコミ操作、天皇制美化・強化等は黙殺しない。キリスト者として、神から与えられた使命を全うするべくそうした勢力策動と戦う責任があることを再確認し、この地での真の自由を守り、信仰の平和と民主主義実現のため先駆者的役割を担い続ける。

過ち繰り返さぬよう信仰に堅く立ち

日キ教団総会議長

日本基督教団総会議長、辻宣道師は七日、要約次の様な談話を発表した。

第二次世界大戦下天皇の名において日本はアジア諸国を侵略し、国内外で多数の人命が奪われる中、日本基督教団は成立した。天皇の神格化の下、天皇とキリストのいずれが真の神かと選択を強いられ、大多数の教会は決断をあいまいにして戦争に全面的に協力、生き残りのため一部の教会や教職者を切り捨てた。そのことへの悔い改めの表明が「第二次世界大戦下における日本基督教団の責任についての告白」（六七年）、「旧第六部・第九部の教師、教会への謝罪」（八五年）。今日、大戦への反省もなくアジアへの経済的侵略、偏狭な国家主義教育、そのための天皇、皇室の利用を進める政府により、代替わりが利用されることを憂慮し、「天皇代替りに関する情報センター」を開設した。教団が再び過ちを繰り返さず、信仰に堅く立ち判断と行動を果たし、日本と世界に対し負う主イエス・キリストの福音宣教の使命を正しく果たせるよう、主の助けを祈り求めつつ進むことを表明する。

政教分離遵守を

NCC議長談話

日本キリスト教協議会（NCC）は七日、「私たちはそれぞれの信仰の立場から『天皇の時代』の意味をかえりみる時を迎えた。今後の神道行事に政教分離原則が遵守され、すべての人々の思想・言論・信教の自由が尊重され守られるよう訴える」とする竹内謙太郎議長の談話を発表した。

この世の制度天皇制を福音の光で

日本聖公会首座主教

日本聖公会は七日、木川田一郎首座主教名で、「天皇の御逝去に際して」とする文書を出した。内容概略は次の通り。

一人の人間がその生を全うされたことに対し、その魂の平安を祈り、哀悼の意を表する。天皇が元首、また象徴として歩んだ過去数十年の歴史を省み、教会が国家との関係の中で十分に預言者的役割を果たしてきたか、深く反省すべき時だ。キリストは社会の小さき者、貧しい者、抑圧された者、差別された者と共に歩み、この世の宗教・政治・経済的権力者が神のように振る舞う誤りを指摘した。この主に従う私たちは、人の手になるこの世の象徴・権威・制度に、常に福音の光を当てて観る努力を怠らず、同じ光で、憲法が保証する信教の自由と政教分離原則の重要性を知る。天皇制の本質を見通せず、多くのアジアをはじめ世界中の人々に大きな犠牲を払わせた事態を深刻に受け止め、今、過ちを繰り返さない決意を新たに、世界の平和の器となるよう祈り努めたい。

聖会〝自粛〟せず

日本福音自由教会関東地区

天皇逝去の翌八日午後、埼玉県浦和市の浦和市民文化センターで、日本福音自由教会関東地区協議会主催による恒例の新年聖会が予定通り開かれ、一都三県から教会員ら約九百人が参加した。日本中が自粛ムードの中、会場には連合聖歌隊によるハレルヤコーラスも響いた。

今年は日本福音自由教会の創立四十周年にあたり、講師の古山洋右師が用意していたメッセージはヨシュア記一・1～7から「雲の柱、火の柱に導かれて」が主題。荒野での四十年を超えて新しい地に入って行くとき、主がヨシュアに「強くあれ、雄々しくあれ」と言われたことを、同教会の四十年と戦後の四十余年の歴史に重ね、「戦後の荒野の四十年を踏まえた上で新しい時代に入って行く今、どんな難局が待っているか分からないが、ヨシュアの態度に倣って前進しよう」と語った。

この集会が新聞記者の知るところとなり、「自粛しないわけは？」と取材。九日の朝日新聞朝刊の東埼玉版に「信仰は個人の良心にまかせられるもの。国家権力に左右されてはならない」という、同協議会会長・栗原延元師の談話が掲載された。古山師は「こうした事を通しても証しになる」と話している。

教会の信仰的対応が記事に

名古屋朝日社会面

「賛美・一色に恐れ」という、四段抜きの見出しの、天皇賛美一色の風潮に疑問を投げ掛ける、朝日新聞名古屋本社版社会面の記事に、「キリスト教会の動き」として、日本キリスト改革派教会の動向が紹介された。この記事は、「心ならずも戦争に協力した反省を踏まえ」た、同教団創立のいきさつ、昨年十月の、定期大会での皇位継承に関する声明等を紹介し、「各教会の日曜礼拝で、集まった信者に『今こそ信仰を強く持つように』と訴えた」と報じた。

落穂抄

「テレビや新聞の過剰報道を見た時、前の時代に戻ったのではないかと目を疑いました」。一月七日の天皇逝去から、日本全土をおおった現象に出合い、来日中のある日系人教会牧師の驚きは大きかった。我が国の象徴であったとはいえ、人の生涯があまりにも美化される過程は、改めて日本という精神風土の〝空虚〟の大きさを知らされることになったという◆外から見ていた祖国日本の時代の移り変わり――「このような土壌の中で、いかに教会が困難な状況にあるかを実感した」とも牧師は語る。「実質的に昭和という時代は、あの二十年の敗戦で終わっていたはずなのに、今も連綿と続いていたのですね」。内なる天皇制が人々の心をとらえて離さない。経済的復興を遂げた〝大国日本〟の中で、人々は〝日本人〟としての存在感を求めている。それが幻想であっても権威を求める人々のゆれ動く心がある◆〝象徴〟という言葉が不明瞭であるように、その象徴に権威を見いだそうとする人々の心も言い表すことのできない情緒の世界に埋没する。今、最も歴史の転機に立ちどまるべき時に、人間の本質を問い直す声がかき消されつつあるのではないか。皇居で手を合わせる老若男女の姿に〝神々の精神風土〟が浮かび上がってくる◆「彼の死を通じ、日本国民全体が、その罪をつぐなう契機となればと思う」、韓国のキリスト教指導者の一人はある通信社の特集記事でそう答えている。同師は「我が国を植民統治した最高責任者として責任は免れないだろう」とも語った。日本側の平均的歴史感覚に照らせば、いかにもそのような発言は過激であると感じるかもしれない。しかし、問題となるのは、そのような日本人の平均的歴史感覚ではないか。新しい時代というなら、国民である前に一人の人間としての存在こそ問われなくてはならない。

声明・要望書・通達

首相に要望書

日本福音同盟

日本福音同盟（JEA）は、一月七日付で、竹下総理大臣あてに「要望書」を送った。内容の概略は次の通り。

天皇の葬儀（大喪の礼）は、主権在民と政教分離を原則とする憲法に厳格に従い、国際的な平和国家にふさわしく、神道という特定の宗教によって行われないよう強く要望する。また、弔意の表し方が、国によって国民に画一的に強制することがないように。新天皇の即位について、大嘗祭は、特に神道的色彩が濃く、天皇を神格化する意味もあり、絶対に国事行為として行わないように強く要望する。

「元号」不使用を呼び掛け

バプ連盟靖国委声明

日本バプテスト連盟靖国委員会は十日、概略次の様な「声明」を発表した。

戦争責任に対し明確な謝罪もなく天皇が死去したことは、歴史への無反省を生み、マスコミの天皇賛美、「昭和」史の美化を巻き起こしている。「剣璽等承継の儀」を国事行為として行い、新天皇の即位を、憲法の精神に基礎づけず、神話に基礎づけているのは政教分離原則違反。「大喪の礼」を国事行為として行うことも、六四年、靖国神社における「全国戦没者追悼式」を非宗教的式典と主張した愚挙と同じ手法。笑顔の天皇制キャンペーンを伴う、政府の、政教分離をなし崩しにする動きは、差別と無責任体制を正当化する天皇制の存続を問う機会を奪い、現政治権力強化への利用に他ならない。「元号」も、天皇による時間と空間の支配であり不使用を呼びかける。この世のものを神とする試みであり、新天皇が「現人神」になると言われる「大嘗祭」に反対し、それを国事行為としないよう要求する。真に民主的な国になるため戦い続けることを表明する。

戦争責任は不問に付せぬ

日キ教団靖国委声明

日本キリスト教団靖国神社問題特別委員会は七日、概略次の様な「天皇死去に関する声明」を発表した。

天皇は一九二六年から四五年まで大日本帝国憲法により、神聖天皇として祭祀・軍事・統治の大権を一身に兼ねた存在だった。四七年以降日本国憲法により象徴天皇であったが、憲法の規定する国事行為にとどまらず、象徴天皇制をはみだす行為も少なくなかった。「満州事変」から太平洋戦争に及ぶ十五年戦争が明白な侵略の意図のもとに準備・遂行され、陸海軍の統帥者としての天皇の戦争責任は不問に付せない。今、天皇死去を利用する殊更な天皇制宣伝、弔意表明強要の国民動員、過剰警備、人権抑圧、差別や中傷に対しあらゆる社会領域で厳しい監視の目の必要を訴える。あらゆる意味で「戦後」を画するこのような時、マスコミが事態を冷静に受け止め、厳正中立の報道に徹するよう、良識を求める。

天皇制の役割は変わらない

日キ教団社会委声明

日本キリスト教団社会委員会は七日、概略次の様な「声明」を発表した。

近年、特に「在位六十年」頃から「平和愛好者天皇」というイメージが強く打ち出され、日本の歩みへの認識がゆがめられている。天皇の戦争責任と民衆への弾圧が隠蔽（いんぺい）されたまま、極端に美化された「昭和天皇」のイメージがふりまかれ、それがそのまま「明仁天皇」に結びつき、新時代の国家の統合と「発展」のシンボルとしての「象徴天皇制」を容認、評価に利用されることが予想される。これからの状況下、①「昭和史」における天皇は、アジア諸国への日本国家の侵略の責任者であることを明らかにし続ける②その国家の動向の中で、日本のキリスト教会も屈服、協力し、同調しない者には弾圧を加えた天皇制国家の性格への認識を持ち続ける③代替りによる、スマートな「象徴天皇制」においても、国家の統合と支配における天皇の役割はいささかも変わらないことを認識し続ける。

地の塩として教会は適切な対応を

日キ教団沖縄教区

日キ教団・沖縄教区は七日、「天皇の逝去にあたって」とする概略次の様な文書を各教会あてに発表した。

かつての「神聖天皇」支配下、今日の象徴天皇制下、キリスト者はどのようなキリスト者であり得ていたか。新天皇の時代に向かって、日本の大勢が新天皇と新元号になだれを打ってのみこまれていくだろう中、私たちが地の塩、世の光として堅く立つとはどういう在り方か。この時にあたり、沖縄教区の全教会、伝道所が醒（さ）めた信仰の目で事に当たることを望み、天皇の沖縄国体出席をめぐって昨年出された「常置委員会見解」を参考にして、第三十回教区定期総会で決議された申し合わせに沿って、教会として適切な対応をするよう要望する。

「信仰的課題として」強調

同盟基督靖国委通達

日本同盟基督教団靖国神社問題委員会は、七日付で、「天皇の死に際して」との通達を所属教会に送った。これはまず「信仰的課題として」の項目で、天皇に関する過去の歴史的事実と戦争責任を振り返った後、「但し、周囲と同調して政治的発言に終始」せず、「信仰的発言へと変えられていく必要がある」として、「我らの罪を赦したまえ」との日ごろの祈りを踏まえ、同胞すべての罪、天皇の罪をも「我らの罪」としてとりなしていく使命が教会に与えられていると、述べている。

次に「信仰の自由のために」として、周囲の、天皇を国民感情の中に位置付け、ひいては神格化しようとの動きにもかかわらず、彼は「人間であって神のみ前に一人の罪人にすぎない」と指摘。死者を追悼する習慣が自然であったとしても、それが強制や良心の圧迫に転じ、信教の自由が犯されることがあると懸念。更に、戦中、「私をおいて他に神があってはならない」との戒めを忘れ、神社参拝にかかわり、神社参拝を拒否した内外の兄姉を見すごしにした「過去のつまずきを主のみ前に、私たち日本の教会は背おっている」としている。

更に「今後の対応のために」として、「落ち着いた生活をし、自分の仕事に身を入れ」（Ⅰテサロニケ四・11）ると共に、時を支配されるのは神であるから、「時が良くても悪くても」集会を止めず、みことばを宣べ伝え（Ⅱテモテ四・1～2、ヘブル十・25）ることが、「この時局に際し、教会の最も大切な事がら」として留意されるべきではとしている。

主な記事から

「皇太子への手紙」その後 （2面）
全生活領域へ信徒牧会 （8面）
〝冒涜〟映画公開を前に （9面）

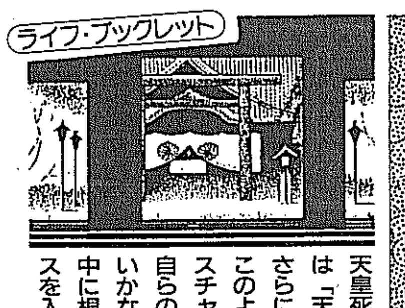
スケートが気分最高！
恵みシャレーから車で15分のところに軽井沢スケートセンターがある。400 mリンク（アウトドア）で豪快なスケートが楽しめる。恵みシャレーからスケートセンターまでの車の送迎有り。割引券もあります。
シャレー・ニュースその2
いのちのことば社伝道グループ
恵みシャレー 軽井沢
軽井沢クリスチャンセンター
〒389-01 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢1374-5
TEL 0267-42-2302
東京事務所〒160 東京都新宿区左門町20奥浦ビル
TEL 03-359-0912 FAX 03-353-2658
お気軽にパンフレットをご請求下さい。

在日韓国老人ホームを作るための募金にご協力下さい!!
お問い合わせは▶ ☎03-293-4554 ☎06-768-3095
在日韓国老人ホームを作る会
献金振込は郵便振替 東京2－190659

保険豆事典 その12
シートベルトは疲れない
長時間悪い姿勢で、運転を続けるとかえって疲れ、背椎わん曲症の原因になります。
また、姿勢の悪い人は前かがみから胃を圧迫し、イライラ運転につながります。シートベルトをしめ正しい姿勢での運転は疲労を少なくし、安全運転を約束します。
ANSVAR アンスワール
〒106 港区六本木6-11-9 スウェーデンセンター
TEL.03-403-9971

持ち運びカンタン。
消去機能アリ。

いまやテープ伝道が主流。
ボタンを押すだけで60分テープが約2分で両面同時コピー
アイディアひとつで伝道が拡がります。たとえば…。
その1、礼拝のメッセージをコピーして…。その2、すばらしい賛美をコピーして…。
その3、感動の証しをコピーして…。 その4、信徒聖書講座の教材として…etc.
伝道に非常に有効で必要な武器です。
礼拝を中心に定期集会のメッセージを録音して希望者に貸し出したり、販売しております。
集会が終わった時点ですぐ出来るので、礼拝を休んだ人にその日のメッセージをいちはやく届けることが出来ますし、遠くにいる親戚、知人への伝道に有効に用いています。また遠隔地の無牧の教会に、毎週の礼拝のメッセージを録音して送っております。まさにメッセージの出前です。教会が大きくなればなるほど需要が大きくなると思います。
川越のぞみ教会牧師 千代崎秀雄
◆ご利用いただいている教会 京浜キリスト教会・バプテスト教会連合大野教会・水俣福音キリスト教会・聖書のキリスト坂下教会・松原湖バイブルキャンプほか、神学校やミッションスクールでも
増設ユニットで同時に五本コピー可。アフターケア万全。
寸法W318×H146×D236重量6kg標準価格248.000円 各ライフセンター書店または下記へお問い合わせ下さい。ご試用も相談に応じます。
株式会社ユニテック ☎0427-53-6160 〒229 神奈川県相模原市相生4-6-14 FAX0427－56－6155



『天皇制と日本人』について考えるための必読書
千代崎秀雄／池尻良一／井戸垣彰 共著
天皇制・靖国 国家宗教とクリスチャン
緊急書下ろし
ライフ・ブックレット
天皇死去の報道とともに日本列島は「天皇セレモニー」に覆われ、さらに時代逆行の感を強めている。このような状況下にあって、クリスチャンは昭和史を見つめなおし、自らの立場を明確にして証ししていかなければならない。日本人の中に根強く残る国家神道精神にメスを入れる。
■A5判 550円 〒200
井戸垣彰 著
キリスト者であることと日本人であること
いざとなると神に従うことより、世の流れや国家、家に従うことを優先してしまう〝日本的なもの〟を克服するために。
■B6判 1300円 〒250
信教の自由と日本の教会
法的に保障されている〝信教の自由〟の尊さを見直す。日本人の心の奥で働いている異教性にもメスを入れる注目の書。
■B6判 1200円 〒250
このくにで主に従う
キリシタン時代以来、「日本的なもの」は宗教のような力をもってキリストの福音と衝突してきた。〝家〟意識等について考える。
■B6判 1300円 〒250
いのちのことば社 〒160 新宿区信濃町6 ☎03(353)9345